

氏 名	澤田 希代加
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第634号
学位授与年月日	令和5年9月 6日
審 査 委 員	主査 教授 田村 研治
	副査 教授 浦野 健
	副査 教授 磯部 威

論文審査の結果の要旨

子宮体癌は生物学および組織学的特徴により大きく2つのタイプに分類され、そのうちType2子宮体癌はGrade3類内膜癌や非類内膜癌が属し、エストロゲン非依存性に萎縮内膜から発癌する。進行性、治療抵抗性であり、Type1と比較し予後不良のため、新規治療戦略が必要である。

DNAミスマッチ修復欠損（mismatch repair deficiency: dMMR）を有する腫瘍は、免疫チェックポイント阻害剤の奏効が期待される。本研究では、Type2子宮体癌における免疫チェックポイント阻害剤の有用性を検討するため、MMR蛋白、腫瘍内CD8リンパ球浸潤、免疫チェックポイント分子（PD-L1）の発現について免疫組織化学的に評価を行なった。検討を行なった60症例中、40% (24/60) でdMMRを認めた。CD8+およびPD-L1の発現率は、dMMR群で有意に高い結果であった。また、stageⅢ・Ⅳ期の進行癌においてはdMMR群で予後良好であった。

Type2子宮体癌ではdMMRの頻度が高く、dMMRでは免疫チェックポイント関連分子の発現が高かった。そのため、dMMRのType2子宮体癌では免疫チェックポイント阻害剤がより効果的な可能性が考えられる。